４　共生社会について

|  |
| --- |
| ４　共生社会について（問18～問23） |

４．共生社会について

（１）「共生」という言葉から思い浮べること

◇「人と人とのつながり」、「多様性の尊重」の２項目が５割前後

|  |
| --- |
| 問18　あなたは、「共生」という言葉からどのようなことを思い浮べますか。次の中から３つまで選んでください。（○は３つまで） |



「共生」という言葉から思い浮べることは、「人と人とのつながり」（51.0％）が５割強で最も高く、次いで「多様性の尊重」（48.1％）、「偏見や差別（がない）」（39.4％）、「地域における支え合い」（31.4％）、「環境や自然」（30.0％）などとなっている。

【属性別比較】

1. 地域別

「人と人とのつながり」は秩父地域（60.0％）で６割と最も高くなっている。「多様性の尊重」は、県央地域（52.8％）とさいたま地域（52.3％）で5割強と高くなっている。「偏見や差別（がない）」は西部地域（43.5％）で4割強と最も高くなっている。

1. 性別

「人と人とのつながり」は男性（53.2％）の方が女性（50.0％）よりも3.2ポイント高く、「地域における支え合い」も男性（34.1％）の方が女性（29.7％）よりも4.4ポイント高くなっている。一方で、「多様性の尊重」は女性（49.8％）の方が男性（46.6％）よりも3.2ポイント高くなっている。

1. 年代別

「人と人とのつながり」は70歳以上（56.9％）が5割台半ばを超えて最も高くなっている。「多様性の尊重」は10歳代・20歳代（57.4％）が5割台半ばを超えて最も高く、年代が上がるにつれ割合が低くなる傾向がみられる。「地域における支え合い」は70歳以上（46.3％）で４割台半ばを超えて最も高くなっている。

1. 性・年代別

「人と人とのつながり」は女性70歳以上（57.7％）が5割台半ばを超えて最も高くなっている。「多様性の尊重」は男性10歳代・20歳代（57.1％）、男性30歳代（57.7％）、女性10歳代・20歳代（57.4％）で５割台半ばを超えて高く、「偏見や差別（がない）」は女性60歳代（47.1％）が4割台半ばを超えて最も高くなっている。

1. 職業別

「人と人とのつながり」は職業において回答分布に大きな差はみられない。「多様性の尊重」は雇用者（計）（50.5％）が５割を超えて最も高くなっている。

1. ライフステージ別

「人と人とのつながり」は独身期（55.4％）と高齢期（55.0％）で5割台半ばと最も高くなっている。「多様性の尊重」は独身期（58.1％）で6割弱と最も高く、「偏見や差別（がない）」は家族成熟期（46.2％）で4割台半ばを超えて高くなっている。

○「共生」という言葉から思い浮べること・地域別／性別／年代別／性・年代別／職業別
／ライフステージ別

（２）現在の社会について感じていること

◇「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」が29.6％

|  |
| --- |
| 問19　埼玉県では、誰もが互いに尊重され、いきいきと活躍できる「共生社会」の実現を目指しています。あなたは、現在の社会についてどのように感じていますか。（○は１つだけ） |



現在の社会について感じていることは、「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」（29.6％）が約３割と最も高く、次いで「考えてもよくわからない」（23.6％）、「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が感じられない」（21.7％）、「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が進んできていると感じる」（16.8％）などとなっている。

【属性別比較】

1. 性別

「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が感じられない」は男性（25.0％）の方が女性（19.6％）よりも5.4ポイント高くなっている。一方で、「考えてもよくわからない」は女性（27.3％）の方が男性（18.4％）よりも8.9ポイント高くなっている。

1. 年代別

「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」は50歳代以上で３割台と高くなっている。「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が感じられない」は40歳代（23.9％）で2割強と最も高く、「考えてもよくわからない」は60歳代（25.3％）で2割台半ばで最も高くなっている。

○現在の社会について感じていること・性別／年代別

1. 地域別

「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」は東部地域（32.9％）と北部地域（31.5％）で３割強と高くなっている。「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が感じられない」は秩父地域（27.5％）で２割台半ばを超えて最も高くなっている。一方で、「考えてもよくわからない」は川越比企地域（30.0％）で3割と最も高くなっている。

1. 性・年代別

「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」は男性70歳以上（34.3％）で３割台半ばと最も高くなっている。

1. 職業別

「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が感じられない」は雇用者（計）（24.0％）で2割台半ばと最も高くなっている。

1. ライフステージ別

「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」は高齢期（34.8％）と家族成熟期（34.3％）で３割台半ばと高く、「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が感じられない」は独身期（24.2％）で2割台半ばと最も高くなっている。一方で、「考えてもよくわからない」は家族成長前期（29.4％）で約3割と最も高くなっている。

○現在の社会について感じていること・地域別／性別／年代別／性・年代別／職業別
／ライフステージ別



（３）共生社会を実現するために最も重要だと思う取組

◇「地域において支え合う仕組み」が28.1％

|  |
| --- |
| 問20　共生社会を実現するために、最も重要だと思う取組はどれですか。（○は１つだけ） |



共生社会を実現するために最も重要だと思う取組は、「地域において支え合う仕組み」（28.1％）が３割弱で最も高く、次いで、「考えてもよくわからない」（16.8％）、「子供や若者、高齢者など年齢を超えた交流促進」（15.1％）、「女性の社会参加促進」（7.8％）、「ＬＧＢＴＱ（性的マイノリティ）への理解促進」（7.2％）などとなっている。

1. 地域別

「地域において支え合う仕組み」は北部地域（35.0％）で３割台半ばと最も高く、「子供や若者、高齢者など年齢を超えた交流促進」は南部地域（18.3％）で２割弱と最も高くなっている。

1. 性別

「地域において支え合う仕組み」は男性（30.5％）の方が女性（26.9％）よりも3.6ポイント高くなっている。一方で、「女性の社会参加促進」は女性（9.1％）の方が男性（5.9％）よりも3.2ポイント高く、「ＬＧＢＴＱ（性的マイノリティ）への理解促進」も女性（8.8％）の方が男性（5.2％）よりも3.6ポイント高くなっている。

1. 年代別

「地域において支え合う仕組み」は70歳以上（36.3％）で3割台半ばを超えて最も高く、「子供や若者、高齢者など年齢を超えた交流促進」も70歳以上（18.5％）が2割弱で最も高くなっている。両項目とも年代が下がるにつれ割合も低くなる傾向がみられる。

1. 性・年代別

「地域において支え合う仕組み」は女性70歳以上（38.4％）で4割弱と最も高くなっている。「子供や若者、高齢者など年齢を超えた交流促進」は男性70歳以上（22.4％）で2割強と最も高くなっている。また、「ＬＧＢＴＱ（性的マイノリティ）への理解促進」は女性10歳代・20歳代（27.8％）が他の性・年代層に比べて特に高くなっている。

1. 職業別

どの項目においても、職業別の回答割合には特に大きな差はみられない。

1. ライフステージ別

「地域において支え合う仕組み」は高齢期（35.5％）で３割台半ばと最も高くなっている。また、「ＬＧＢＴＱ（性的マイノリティ）への理解促進」は独身期（20.2％）で2割を超えており、他の層に比べて特に高くなっている。

○共生社会を実現するために最も重要だと思う取組・地域別／性別／年代別／性・年代別／職業別／ライフステージ別



（３－１）共生社会を実現する取組を進める上で具体的に必要だと思うこと

◇「地域や社会における理解」が53.4％

|  |
| --- |
| （問20で、何らかの取組を選んだ方（「10．考えてもよくわからない」、「11．関心がない」以外）にお伺いします。）問20－１　問20で選択した取組を進める上で、具体的に必要だと思うことはどれですか。次の中から３つまで選んでください。（○は３つまで） |



取組を進める上で具体的に必要だと思うことは、「地域や社会における理解」（53.4％）が５割強で最も高く、次いで「地域における人と人とのつながり強化」（32.7％）、「困ったときの相談先」（29.5％）、「職場や学校における理解」（26.8％）、「安心できる居場所」（25.9％）、「社会的なルールづくり」（22.4％）などとなっている。

【属性別比較】

1. 地域別

「地域や社会における理解」は川越比企地域（56.9％）と北部地域（56.4％）で5割台半ばを超えて高くなっている。「地域における人と人とのつながり強化」は南部地域（39.3％）で約4割と最も高くなっている。

※秩父地域（ｎ＝29）はサンプル数が30未満のため分析の対象から除外している。

1. 性別

「地域における人と人とのつながり強化」は男性（35.3％）の方が女性（31.2％）よりも4.1ポイント高くなっている。一方、「安心できる居場所」は女性（29.1％）の方が男性（21.5％）よりも7.6ポイント高く、「困ったときの相談先」も女性（31.3％）の方が男性（27.4％）よりも3.9ポイント高くなっている。

1. 年代別

「地域や社会における理解」は10歳代・20歳代（60.3％）で６割を超えて最も高くなっており、「地域における人と人とのつながり強化」は70歳以上（47.6％）で4割台半ばを超えて最も高くなっている。

1. 性・年代別

「地域や社会における理解」は女性10歳代・20歳代（60.7%）と男性10歳代・20歳代（60.2％）で6割を超えて最も高くなっている。

1. 職業別

「地域における人と人とのつながり強化」は自営業・家族従業（計）（39.4％）で約４割と最も高くなっている。

1. ライフステージ別

「地域や社会における理解」は家族成長前期（59.6％）で約６割と最も高くなっており、「地域における人と人とのつながり強化」は高齢期（46.2％）で4割台半ばを超えて最も高くなっている。

○取組を進める上で具体的に必要だと思うこと・地域別／性別／年代別／性・年代別／職業別／ライフステージ別



（４）「共生」についての悩みや困りごと

◇「地域における人間関係を理由とするもの」が20.7％

|  |
| --- |
| 問21　「共生」に関して、あなた自身が感じたことのある悩みや困りごとはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも） |



「共生」についての悩みや困りごとについては、「感じたことはない、考えたことがない」（41.7％）が４割強となっている。

具体的な悩みや困りごとでは、「地域における人間関係を理由とするもの」（20.7％）が２割を超えて最も高く、次いで、「障がい・疾病を理由とするもの」（17.3％）、「国籍・文化・言語の違いを理由とするもの」（14.1％）などとなっている。

【属性別比較】

1. 地域別

「地域における人間関係を理由とするもの」は秩父地域（32.5％）で３割強と最も高くなっている。「障がい・疾病を理由とするもの」も秩父地域（20.0％）で２割と最も高くなっている。「国籍・文化・言語の違いを理由とするもの」は南部地域（19.8％）が約2割と最も高くなっている。

1. 性別

「地域における人間関係を理由とするもの」は男性（23.6％）の方が女性（18.9％）よりも4.7ポイント高くなっており、「国籍・文化・言語の違いを理由とするもの」も男性（18.5％）の方が女性（11.1％）よりも7.4ポイント高くなっている。

1. 年代別

「地域における人間関係を理由とするもの」は年代が上がるにつれおおむね割合が高くなっており、70歳以上（26.2％）で２割台半ばを超えて最も高くなっている。また、「性別（ジェンダー（社会的性差）を含む）を理由とするもの」は年代が下がるにつれ割合が高くなっており、10歳代・20歳代（24.1％）で２割台半ばと最も高くなっている。

1. 性・年代別

「地域における人間関係を理由とするもの」は男性70歳以上（29.7％）で約3割と最も高くなっている。「性別（ジェンダー（社会的性差）を含む）を理由とするもの」は女性10歳代・20歳代（30.2％）で他の性年代と比べて特に高くなっている。

1. 職業別

「障がい・疾病を理由とするもの」は無職（計）（19.2％）で約2割と最も高くなっている。

1. ライフステージ別

「地域における人間関係を理由とするもの」は高齢期（25.5％）で2割台半ばと最も高く、「性別（ジェンダー（社会的性差）を含む）を理由とするもの」は独身期（24.8％）で他の層と比べて特に高くなっている。

○「共生」についての悩みや困りごと・地域別／性別／年代別／性・年代別／職業別
／ライフステージ別

（５）「共生」について周囲の人の悩みや困りごととして見聞きしたこと

◇「障がい・疾病を理由とするもの」が24.8％

|  |
| --- |
| 問22　「共生」に関して、あなたの周囲の人の悩みや困りごととして見聞きしたことがあるものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも） |



「共生」について周囲の人の悩みや困りごととして見聞きしたことは、「見聞きしたことはない」（37.7％）が３割台半ばを超えている。

具体的に見聞きした周囲の人の悩みや困りごととしては、「障がい・疾病を理由とするもの」（24.8％）が２割台半ばで最も高く、次いで「地域における人間関係を理由とするもの」（20.5％）、「国籍・文化・言語の違いを理由とするもの」（17.1％）などとなっている。

【属性別比較】

1. 地域別

「障がい・疾病を理由とするもの」は東部地域（27.8％）、川越比企地域（27.0％）、西部地域（26.8％）で２割台半ばを超えて高くなっている。「地域における人間関係を理由とするもの」は秩父地域（30.0％）で3割と最も高くなっている。

1. 性別

「障がい・疾病を理由とするもの」は女性（26.3％）の方が男性（22.8％）よりも3.5ポイント高くなっている。一方、「国籍・文化・言語の違いを理由とするもの」は男性（19.9％）の方が女性（15.2％）よりも4.7ポイント高くなっている。

1. 年代別

「障がい・疾病を理由とするもの」は30歳代（29.7％）で約3割と最も高くなっている。「地域における人間関係を理由とするもの」は70歳以上（25.8％）で2割台半ばと最も高くなっている。

1. 性・年代別

「障がい・疾病を理由とするもの」は女性30歳代（31.2％）と女性10歳代・20歳代（30.9％）で3割を超えて高くなっている。「地域における人間関係を理由とするもの」は男性60歳代（28.4％）で3割弱と最も高くなっている。

1. 職業別

「地域における人間関係を理由とするもの」は自営業・家族従業（計）（24.8％）と２割台半ばで最も高くなっている。

1. ライフステージ別

「障がい・疾病を理由とするもの」は独身期（31.2％）で3割強と最も高く、「地域における人間関係を理由とするもの」は高齢期（28.2％）で3割弱と最も高くなっている。

○「共生」について周囲の人の悩みや困りごととして見聞きしたこと・地域別／性別

／年代別／性・年代別／職業別／ライフステージ別



（６）共生社会づくりの取組で参加・協力できると思うもの

**◇**「地域活動への参加」が26.1％

|  |
| --- |
| 問23　埼玉県が共生社会づくりの取組を進めて行く中で、あなたが参加・協力できると思うものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも） |



共生社会づくりの取組で参加・協力できると思うものは、「地域活動への参加」（26.1％）が２割台半ばを超えて最も高く、「募金や物資の寄付などの物的支援」（21.5％）、「職場や学校での研修会・勉強会への参加」（17.7％）、「地域（職場や学校以外の場所）における研修会・勉強会への参加」（16.4％）などとなっている。

一方で、「今は参加・協力できないが将来的には参加・協力を検討したい」（19.9％）が約2割、「関心がない」（13.6％）が1割強となっている。

【属性別比較】

1. 地域別

「地域活動への参加」と「募金や物資の寄付などの物的支援」はともに北部地域（37.9％・26.6%）で最も高くなっている。「職場や学校での研修会・勉強会への参加」は秩父地域（25.0%）で２割台半ばとやや高くなっている。一方で、「今は参加・協力できないが将来的には参加・協力を検討したい」は南西部地域（26.3％）で２割台半ばを超えて最も高くなっている。

1. 性別

「地域活動への参加」は男性（29.8％）の方が女性（23.8％）よりも6.0ポイント高くなっている。一方、「募金や物資の寄付などの物的支援」は女性（25.4％）の方が男性（16.4％）よりも9.0ポイント高く、「職場や学校での研修会・勉強会への参加」でも女性（19.5％）の方が男性（15.5％）よりも4.0ポイント高くなっている。

1. 年代別

「地域活動への参加」は年代が上がるほど割合が高くなっており、70歳以上（35.7％）で3割台半ばと最も高くなっている。

1. 性・年代別

「地域活動への参加」は男性70歳以上（40.6％）で4割を超えて最も高くなっている。「募金や物資の寄付などの物的支援」は女性70歳以上（32.1％）で3割強と最も高くなっている。

1. 職業別

「職場や学校での研修会・勉強会への参加」は雇用者（計）（26.1％）で２割台半ばを超えて最も高くなっている

1. ライフステージ別

「地域活動への参加」と「募金や物資の寄付などの物的支援」は高齢期（39.4％・26.4％）で最も高くなっている。また、「職場や学校での研修会・勉強会への参加」は家族成長前期（32.2％）、独身期と家族成長後期（各31.5％）で３割強と高くなっている。

○共生社会つくりの取組で参加・協力できると思うもの・地域別／性別／年代別
／性・年代別／職業別／ライフステージ別